

自由意見		次期総合戦略への掲載方針	
1	水木しげるロードの入込客数のカウントについて	実績としては、平成22年（1月～12月）に年間入込客数372万人を突破し過去最高でした。この数字は、東西に延びる水木ロードの中央近辺南北2か所にセンサーが設置されており、そのセンサーが捉えた数値である。 ところが、昨年7月、水木ロードが大幅にリニューアルされたにもかかわらず、センサーは古いセットのままであり、正確とは言い難いのではないのでしょうか。数値について、あまり細かいことをいう気はありません。それでも、近似値とあまりにかけ離れた場合、問題があるということで、質問させていただきました。	・掲載しない センサーは正確に稼働しております。
2	農業体験・魚体験プランの作成	夏休み等長期休みを利用しての「農業体験・魚体験」などのプランを作成。これを商品として募集する。 例：さつまいもなど、作付けを体験して、作付けた家族に収穫を体験してもらう。作付けから収穫までに、数回境港市に来てもらい、宿泊を伴うので、市内観光、周辺の温泉観光なども体験してもらい、境港市の認知度を高くしてもらう。 また、美保湾を船で周回し、帰着後、魚教室を開催し、魚に興味を持っていただく。授業に使った「さかな」を自分たちで調理して、実食して、魚に対する興味を高くしてもらう。	・掲載する 「新規体験メニューの造成件数」をKPIとして設定します
3	外国語学校	国際都市・境港市に外国語学校があれば、水産業・観光業など即戦力の人たちが増えると思います。また、出身地等との交流ができれば、良いと思います。	・掲載しない 外国人技能実習生による「日本語教室」を実施し始めたところであり、今後、「外国語学校」への規模の拡大が必要か確認していきたいと思います。
4	「伯州綿」学習・体験事業の開催	取り組み件数が大幅に増加し、目標の70件は到達できる見通しとなった。今後もこのペースで子供たちを中心とした体験学習等は維持する必要がある。 (KPIの検討) しかし、この取り組みがパフォーマンスに終始しては意味が薄れる。次世代に引き継がれる学習でなくてはならない。現在、伯州綿の復活を目指して農業公社を中心に100名を超えるサポーターが参加して栽培が続けられている。境港の特産として育て上げるのであれば、サポーターではなく栽培者として、また、次世代に引き継ぐ方を具体的に示していく必要がある。伯州綿の産業化への道には難問が山積しており容易ではない。しかし、境港は今、水木ロードのリニューアルが完了し、やがて次々と進められて来た港湾関係の整備事業も完了目前となり、観光客をはじめとする沢山の人を呼び込める体制が整いつつある。海とくらしの史料館に伯州綿体験施設を併設する事で、市民参加の場と新たな施設の創造は出来ないものだろうか。	・掲載しない 伯州綿体験は畑で行っており、海とくらしの史料館で行う考えはありません。
5	UIJターンの推進	現在の公民館活動の多くは増加しつつある後期高齢者を中心とした活動が大半を占めているように思われる（社会構成上や無負えない事ですが）。また、各自治会の活動も同様である。子供たちの数も減り、一町内に数名しかいない自治会も多くなり、子供から大人まで共に行う事業もほとんどなくなった。将来に不安を抱えながらも、具体的な対策を検討するまでには至っていないのが現状である。私たちの自治会も中山間地に位置する自治体なら限界集落である。官・民・学が協働してUIJターンを真剣に考える、数か所のモデル地区の設定が急がれるように思います。	・掲載しない 市が主導してモデル地区を設定する考えはありません。
6	旧境港水産高校校舎の有効活用	境港市民体育館や産技センター食品開発研究所に行くたびに思うのは、あの校舎をあのままにしておくのはもったいないなあ、ということです。校舎を改修・整備して『起業・創業の場』として活用してはどうでしょうか。教室等を企業に貸し出す、あるいは、セミナーや集会等を開催できる場にする。（集ラボのイメージです）	・掲載しない 旧水産高校は県の管理になりますが、耐震性がなく、改修費用も大規模になることから市として活用は要望していません。同案件として、誠道小学校の活用については、今後検討していきます。
7	都会からの高校入学者の確保	高校への志願者の枠を全国に広げ、県内だけでなく都会からも入学者を呼び込む。少子化に伴い高校を縮小するのではなく、積極的に都会から呼び込む。（島根県では実施されている。県教育委員会での議論が必要？） 都会から来た子供達が境港の良さを学ぶことは、ひいては、地元の子供達にとって郷土愛を育むことにつながると思います。空き家を子供達の宿泊場所に改修することにより、空き家対策につながりますし、生徒が卒業後も残ることや、保護者も一緒に来ることも考えられますので、移住・定住の促進につながると思います。	・掲載する 新規施策「県外からの高校入学者の確保に向けたPR活動」として具体的施策を追加します。入学に関する情報や県の施策を市HPで広報するなどしてPRしていきます。
8	文化・体育の施策	文化・体育の施策がないと潤いが無いと思います。例えば、境港出身で中央で活躍している方々の後援組織を作り、境港で演奏会を開催する（ジャンルは問わず）。	・掲載しない 人口減少対策という点での関連ができず、総合戦略にはそぐわないと考えます。

9	青年団組織の結成	昔のように、青年団組織を作り、若者の交流の場を作る。	・掲載しない 人口減少対策という点での関連ができず、総合戦略にはそぐわないと考えます。
10	災害の少ない町であることをPR	境港市は災害に関しては、大きな被害にあうこともなく、とても住み良い町である。そのことをもっと強調できるPRの方法はないのでしょうか。施策は考えが浮かびませんが…。	・掲載しない 冬季は積雪もあることから災害が全くないとは言えず、掲載は難しいと考えます。
11	9月・10月のイベントの作成	催し物として現在9月、10月に中野港漁村市くらいしかない。	・掲載しない 水産まつり、駅伝などがございます。
12	全市WiFi環境整備	(詳細なし)	・掲載しない 現状、水木しげるロードなどのスポット対応で十分と考えます。
13	ドローン物流の研究	(詳細なし)	・掲載しない 物流困難な地区もなく、率先して研究する必要性は感じていません。
14	ふるさと教育の推進	(詳細なし)	・掲載済み 既存施策「本市への愛着を醸成し、将来のUターンにつなげるため、子どもを対象とした郷土愛づくりへの取組の推進」に包含。
15	AIを活用したヘルスケア	(詳細なし)	・掲載済み 市民対象のデータ分析により、一部の方へ個別対応を実施しており、その効果検証を待ってから、検討に移りたいと考えております。
16	対岸交流の多角化 (台湾、シンガポール、ベトナム、タイ、豪州など)	(詳細なし)	・掲載する 中海・宍道湖・大山圏域市長会事業として、「インド(ケララ州・台湾との経済交流の拡大)」を実施していく方針です。
17	広域行政の推進	(詳細なし)	・掲載済み 中海・宍道湖・大山圏域市長会や鳥取県西部(9市町村)での取り組みを実施。
18	サイクリングロードの利活用	(詳細なし)	・掲載する 新規施策「白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコースを活用した誘客促進」を追加します。
19	市民への啓発	総合戦略が市民にどれだけ訴求しているか、分からない。意識を共有することが大切だと思う。	・掲載しない 意見としてお受け取りします。今後のパブリックコメントも含め、市民への情報提供に努めます。
20	推進会議の運営について	推進会議の進行はこれで良いのか。計画の達成状況を朗読するだけでは、これまで市がどこに力こぶを入れたのか、どんな局面で苦しんだのか、努力の痕跡がうかがえないし、課題として認識できず、議論のたたき台にならない。意見が出ないのは当然かと。 委員には重鎮の方もおられる。多忙な委員を集めるのなら、集めるなりの誠意を持って、委員から発言を引き出す努力・工夫をしていただきたい。同じ対応が市民にもされているようでは、計画は浸透しません。いろいろ書きましたが、境港市のために協力したいので、よろしくお願いたします。	・掲載しない 意見としてお受け取りします。
21	美保湾でのセーリング大会の誘致	—	・掲載しない 国内での大会は今後も開催される予定となっております。
22	若者へのPR	都会での生活は地価、家賃、物価が高く大変であり、それに比べて地元は暮らしやすいことを若者に知らせる。	・掲載しない 市HPに比較表を掲載するなど、情報発信を行います。